

報道関係者各位

平成 20 年 2 月 7 日

森ビル株式会社

森ビル株式会社 代表取締役社長 森 稔 ハーバード・ビジネス・スクール授業にて講義

去る 2 月 5 日（火）（日本時間：6 日（水））、森ビル株式会社（東京都港区） 代表取締役社長 森 稔は、ハーバード・ビジネス・スクール（アメリカ ポストン）の授業※にゲストスピーカーとして招かれました。

「不動産における戦略的ポジショニング」～六本木ヒルズがケーススタディ

今回の講義は、当スクールのケーススタディとして取り上げられた「Roppongi Hills: City Within a City」（六本木ヒルズ：都市の中の都市）を題材に、スタディを熟読・研究した学生たちが、実際にプロジェクトを推進した人物（森）と直接議論を交わすという形を中心に行われました。当講義は、「不動産における戦略的ポジショニング」が主眼に置かれており、冒頭、K P F のユージーン・コーン氏※から「Most unusual developer I have ever seen（私が出会った中で稀有なディベロッパー）」と紹介された森は、不動産ビジネスを行う上で最も大切なポイントとして、明確なビジョンを描くことの重要性を伝えました。また、その後の質疑応答では、ビジョンを実現するプロセスや経営者としての森の考え方に学生の関心が集中し、活発な議論が展開されました。

講義および質疑応答の内容（要旨）は次頁をご参照ください。



Photos taken by John Chu/KPF

※当講義は、アメリカを代表する建築事務所であり、「六本木ヒルズ森タワー」や「上海環球金融中心（建設中）」を設計したコーン・ペダーゼン・フォックス（K P F）の創立者の一人、ユージーン・コーン氏が担当するファイナンス・コースの授業の一環として行われたものです。

【講義内容（要旨）】

- “ヴァーティカル・ガーデンシティ” 構想（都市づくりビジョン）
 - ・ 第三次産業の時代（知識情報化社会）に合わせた都市づくり（コンパクトシティ）
 - ・ 都市生活者のライフスタイルへの寄与、東京の国際競争力強化への貢献
 - ・ 都市開発と環境の両立、地球環境への貢献
- メインタワー最上層に配置された文化施設（美術館等）の意義
- 街のトータルブランディングによるシナジー効果と周辺エリアへの波及効果

【主な質疑応答】

- 学生： 少子高齢化によるビジネスへの影響はあるか。
森： 少子高齢化により、さらに都市化は進み、人々の生活スタイルも変化する。むしろ私の提唱するコンパクトシティは、来るべき少子高齢化の時代に合致し、かつ地球環境への貢献も大きい。
- 学生： インスピレーションの源はどこにあるのか。
森： 国内外を問わず、実際に自分の目で良いものを見て歩き、既成概念にとらわれずに、その様々な組合せで“新結合”を探し出している。インスピレーションよりもアスピレーション（強く願うこと）が大切だ。
- 学生： ビジョンも大切だが、それを実行可能としてきたものは何か。
森： 第一に、自分の存在価値（レゾンデートル）を見出すこと、自分が何をやりたいかを見極めること。そして、来るべき時代（未来）を見通しながら、よいパートナーと組み、よいチームを作り、タイミング良く仕事をする事だ。
- 学生： ところで、地球だけではなく宇宙に不動産を持つとは考えないのか。
森： 我々の惑星（地球）もまだまだ捨てたものではない。（笑）
- 学生： ビジネススクール生へのアドバイスを。
森： 本質を見極めるためには、トライ&エラー（試行錯誤）しかない。私ももっと早く分かっていたら、よりよい街づくりが出来たかもしれない。今は、地球環境のために都市のあり方を見直さなくてはいけないと考えている。そのためには、“ヴァーティカル・ガーデンシティ” 構想の実現が必要だと信じている。

<本件に関するお問い合わせ先>

森ビル株式会社 広報室 野村・森澤

TEL:03-6406-6606 FAX:03-6406-9306 E-mail:koho@mori.co.jp